【樹木の部屋】

コトネアスター（バラ科コトネアスター属　Cotoneaster ）

和名：シャリントウ(車輪桃)　　別名：ベニシタン(紅紫壇)

英名：Rock cotoneaster

バラ目　常緑低木　　原産地：中国

花言葉：統一、安定、変わらぬ愛情、童心　　花色：白、桃

← 写真-１　コトネアスター
撮影日：2019 年 2 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
(ポルトガル)にて
撮影者：M　さん

↘ 写真-２　コトネアスターの実
撮影日：2019 年 2 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
(ポルトガル)にて
撮影者：M　さん

↑ 写真-３　コトネアスターの葉
撮影日：2019 年 2 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
(ポルトガル)にて
撮影者：M　さん

← 写真-４　コトネアスターの小枝
撮影日：2019 年 2 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
（ポルトガル）にて
撮影者：Ｍ　さん

ポルトガル中部大西洋岸のナザレからリスボン東部アレンテージョ地方のヴィラ・ヴィソーザに向かう途中、休憩に立寄ったサービスエリアで見かけました。ピラカンサが・・と思い近寄って見ると、葉の様子が違う？帰国後、調べて見るとコトネアスターでした。

コトネアスターはバラ科コトネアスター属の樹木の総称で日本ではベニシタン(C.horizontalis)を指すことが多いそうですが、写真で紹介した品種は、葉の形、実の着き方が異なっていました。属全体では 200 種ほどの品種があるそうですが、日本には自生していないそうです。

cotone はマルメロの古いラテン語表記、-aster は「-に似ているもの」で、属名は「マルメロに似ているもの」という意味で、これはマルメロに似た葉を持つ品種があるためだそうです。

５～６月に咲く花はクリームがかった白色で、花の様子はボケに、花弁の模様はサンザシに似ています。

19 世紀初頭、イギリスに紹介され、多くの品種が導入、栽培されるようになったそうです。常緑樹や落葉樹、大きさも灌木から一般的な樹木に近いものなど、種類によって特徴は千差万別だそうで、地面を這って伸びて行く匍匐性の品種も多く、壁に当るとよじ登って行く為、「建築家の友人」などと呼称されているそうです。

生垣やボーダー花壇での栽培にも適し、匍匐性のものは、グラウンドカバーに用いられます。耐寒性は強く、栽培は比較的容易だそうです。湿潤な環境とは親和性が低く、育成するにあたっては中性土の土壌が適切とされています。また、アポミクシスによって繁殖する品種もあるそうです。

日本では実の様子からピラカンサに間違われることが多いそうです。ピラカンサによく似ていますが、コトネアスターの葉には鋸歯がなく、枝には棘がないことで区別できます。中国原産のベニシタンは、赤色の果実と枝が横に広がる樹形で、最も広く栽培されていますが、近年は、果実がより美しい園芸品種も導入されているそうです。

＜ちょっと一言＞

・ベニシタン(Cotoneaster horizontalis)

昭和初期に導入され、最も広く栽培されるコトネアスターの代表種。半常緑から落葉の低木で、樹高は 50cm～1m。9 月から果実が赤くなり、寒さ

にも強く、生育旺盛で育てやすい。

・アポミクシス（無融合生殖：Apomixis）

　主に植物で、通常有性生殖によって生じる繁殖体が、受精を伴わない無性生殖によって生じる繁殖体に置き換わる現象。本来花がつくところに球根やむかご、あるいは芽が形成されることは、典型的なアポミクシスの例です。しかし、挿し木や切れ藻からの無性的な生長はアポミクシスとは言いません。受精を伴わないため、アポミクシスによって生じた繁殖体は親植物と遺伝的に同じクローンとなります。